

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 医薬品の本質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品は、人の疾病の診断、治療に使用されるものであり、疾病の予防には使用されない。
- b 医薬品は人体にとって異物であるため、必ずしも期待する有益な効果のみをもたらすとは限らず、好ましくない反応を生じる場合もある。
- c 医薬品のうち、直接人体に対して使用されない殺虫剤等は、人の健康に影響を与えることはない。
- d 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見や使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっている。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問2 次の医薬品成分のうち、その成分が主として含まれることによって、一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の欄に、「透析治療を受けている人は使用しない」旨の記載があるものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a リン酸ジヒドロコデイン
- b アルジオキサ
- c マレイン酸クロルフェニラミン
- d スクラルファート

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問3 医薬品によるアレルギーに関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a アレルギーは、医薬品の薬理作用と関係なく起こることがある。
- b アレルギーは本人の体質によるものなので、普段、医薬品アレルギーを起こしたことがない人は、病気等に対する抵抗力が低下している時にも、医薬品によるアレルギーの心配はない。
- c 内服薬だけでなく、外用薬でもアレルギーが引き起こされることがある。
- d アレルギーには遺伝的要素がないので、近親者にアレルギー体質の人がいても、医薬品を使用する本人のアレルギー発症とは関係がない。

下欄 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問4 医薬品の副作用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品を適正に使用した場合であっても、副作用が生じることがある。
- b 一般用医薬品の使用により副作用の兆候が現れても、軽度ならば基本的に使用を継続する。
- c 一般用医薬品の副作用は、容易に異変を自覚することができるものばかりである。
- d 副作用が重篤化しないためには、使用者が副作用を初期の段階で認識し、適切に対応することが重要である。

下欄 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問5 次の医薬品成分の組み合わせのうち、併用を避ける必要があるものを1つ選びなさい。

- | | | | |
|---|-------------|----|-------------|
| 1 | 塩酸ブロムヘキシン | —— | メキタジン |
| 2 | 塩酸ピレンゼピン | —— | 塩酸ジサイクロミン |
| 3 | ジメチコン | —— | ウルソデオキシコール酸 |
| 4 | ノスカピン | —— | トラネキサム酸 |
| 5 | マレイン酸トリメブチン | —— | 炭酸水素ナトリウム |

問6 医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較してリスクが低いため、症状が改善しなくても、継続して使用してよい。
- b 医薬品は、定められた用量を意図的に超えて服用したり、酒類と一緒に摂取したりすると、急性中毒等を生じる危険性が高くなる。
- c 医薬品の乱用を繰り返すと、慢性的な臓器障害等を生じるおそれもある。
- d 医薬品の乱用により生じた薬物依存から離脱することは、容易である。

下欄	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問7 医薬品と食品との相互作用に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

アルコールは、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることがある。アルコールは、主として肝臓で代謝されるため、アルコールをよく摂取する者では、その代謝機能が(a)ことが多い。その結果、アセトアミノフェンなどでは、通常よりも(b)なることがある。また、代謝産物に薬効があるものの場合には、作用が(c)ことがある。

下欄	a	b	c
1	低下している	代謝されやすく	減弱する
2	低下している	代謝されにくく	減弱する
3	高まっている	代謝されやすく	減弱する
4	高まっている	代謝されにくく	強く出過ぎる
5	高まっている	代謝されやすく	強く出過ぎる

問8 次の生薬成分のうち、医薬品的な効能効果が標榜されていなければ食品として流通可能であるため、その成分を含む食品を併せて摂取すると、医薬品の効き目や副作用を増強させることがあるものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- | | |
|----------|---------|
| a カシュウ | b ゴミシ |
| c サンソウニン | d カノコソウ |

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問9 妊婦が注意すべき医薬品に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

ビタミンA含有製剤は、(a)に通常の用量を超えて摂取すると(b)を起こす危険性が高まるとされている。また、便秘薬は、配合成分やその用量によっては(c)を誘発するおそれがある。

下欄

	a	b	c
1	妊娠前後各3ヶ月	胎児に先天異常	妊娠期間の延長
2	妊娠前後各3ヶ月	胎児に先天異常	流産や早産
3	妊娠前後各3ヶ月	羊水過多	妊娠期間の延長
4	出産前12週以内	分娩時出血の増加	流産や早産
5	出産前12週以内	妊娠期間の延長	分娩時出血の増加

問10 次の漢方製剤のうち、その一般用医薬品の添付文書に、「インターフェロン製剤で治療を受けている人は使用に注意が必要である」旨の記載があるものを1つ選びなさい。

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1 黄連解毒湯 | 2 小柴胡湯 | 3 大柴胡湯 |
| 4 小青竜湯 | 5 麦門冬湯 | |

問 11 次の医薬品成分のうち、一般用医薬品の内服薬として、その成分が主として含まれた場合でも、5歳の小児の服用を禁止する必要がないものを1つ選びなさい。

- | | | | |
|---|-------------|---|-------------|
| 1 | アスピリンアルミニウム | 2 | アミノ安息香酸エチル |
| 3 | サザピリン | 4 | テオクル酸プロメタジン |
| 5 | リン酸ジヒドロコデイン | | |

問 12 小児が医薬品を使用するときの注意に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短いため、服用した医薬品の吸収率が低い。
- b 小児は、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- c 小児は医薬品の成分の代謝・排泄に時間がかかるため、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出たりすることがある。
- d 乳児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品であっても、使用は最小限にとどめ、基本的には医師の診療を受けることが望ましい。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 13 次の成分のうち、授乳中の人¹が服用した場合、吸収された成分の一部が母乳中に移行し、乳児に頻脈を起こすおそれがあるため、その成分を含む一般用医薬品の添付文書に「授乳中の人¹は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避ける」旨が記載されているものを1つ選びなさい。

- | | |
|-------------|------------|
| 1 アセトアミノフェン | 2 ジプロフィリン |
| 3 ビサコジル | 4 カルボシステイン |
| 5 ロートエキス | |

問 14 高齢者が医薬品を使用する際の注意に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として70歳以上を指す。
- b 生理機能が衰えている高齢者は、一般用医薬品を使用する場合、必ず、定められた用量の下限より少ない量を使用するよう注意が必要である。
- c 高齢者は、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすいので注意が必要である。
- d 高齢者では、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合があるので、情報提供時には特段の配慮が必要である。

下欄 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 15 スモン訴訟に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 亜急性脊髄視神経症の英名の頭文字をとってスモンと呼ぶ。
- 2 スモンの原因は、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤である。
- 3 スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じる。
- 4 西ドイツでは1961年にスモンの原因製剤が回収されたにもかかわらず、日本では、販売停止及び回収措置が1962年9月まで行われず、対応の遅さが問題視された。

問 16 サリドマイドによる薬害事件に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a サリドマイドは、催眠鎮静剤として販売されただけでなく、胃腸薬にも配合されていた。
- b サリドマイドの副作用として、血管新生を促進する作用がある。
- c サリドマイドの使用により、下半身のしびれや脱力、歩行困難が現れ、ときに視覚障害から失明に至ることがある。
- d サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 17 プラセボ効果に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a プラセボ効果とは、医薬品を使用したときに薬理作用によらない作用を生じることをいう。
- b プラセボ効果は、主観的な変化をもたらすが、客観的に測定可能な変化は生じさせない。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化にも、不都合なもの（副作用）がある。
- d 通常、医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化は、薬理作用によるものであり、プラセボ効果によるものは含まれない。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 18 医薬品の品質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 内用液剤は開封しても、「使用期限」まで品質が保証されている。
- b 医薬品は、保管・陳列が不適切な場合、医薬品の効き目が変わることがある。
- c 医薬品は、高温、多湿及び直射日光を避けた場所に陳列するよう注意しなければならない。
- d 医薬品に異物の混入や変質がある場合、健康被害の発生の可能性が無くても販売してはいけない。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	誤

問 19 一般用医薬品承認審査合理化等検討会中間報告書「セルフメディケーションにおける一般用医薬品のあり方について」の中で、一般用医薬品の役割とされていないものを1つ選びなさい。

- 1 生活の質の改善・向上
- 2 健康状態の自己検査
- 3 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防
- 4 重度の疾病に伴う症状の改善
- 5 健康の維持・増進

問 20 HIV 訴訟に関する次の記述について、() に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

HIV 訴訟とは、(a) 患者が、(b) が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIV に感染したことに対する損害賠償訴訟である。

本訴訟の和解を踏まえ、国は、HIV 感染者に対する恒久対策推進のほか、医薬品の副作用等による健康被害の再発防止に向けた取組として、平成 8 年に、承認審査体制の充実、製薬企業に対し従来の副作用報告に加えて(c) を義務付ける等を内容とする薬事法の改正を行った。

下欄

	a	b	c
1	血友病	ヒト免疫不全ウイルス	感染症報告
2	血友病	ヒト乳頭腫ウイルス	感染症報告
3	血友病	ヒト免疫不全ウイルス	市販直後調査
4	白血病	ヒト乳頭腫ウイルス	市販直後調査
5	白血病	ヒト免疫不全ウイルス	市販直後調査

主な医薬品とその作用

問 21 かぜ薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品のかぜ薬は、かぜの諸症状の緩和を目的として使用される医薬品で、総合感冒薬とも呼ばれる。
- b 急激な発熱がある場合には、総合感冒薬に解熱鎮痛薬を追加して用いることが望ましい。
- c 15歳未満の小児については、インフルエンザの流行期は、解熱鎮痛成分がアセトアミノフェンや生薬成分のみからなるかぜ薬を使用することが望ましい。
- d 抗炎症成分の塩化リゾチームは鶏卵の卵白から抽出された蛋白質であるため、鶏卵アレルギーがある人は、塩化リゾチームを含む医薬品の使用を避ける必要がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問 22 次の成分を配合するかぜ薬についての記述のうち、誤っているものを
1つ選びなさい。

2カプセル中	イソプロピルアンチピリン	100mg
	アセトアミノフェン	150mg
	マレイン酸クロルフェニラミン	2mg
	リン酸ジヒドロコデイン	6mg
	塩酸メチルエフェドリン	20mg
	カンゾウエキス末	30mg
	無水カフェイン	25mg

- 1 イソプロピルアンチピリンが含まれているので、ピリン系解熱鎮痛成分でアレルギー症状を起こしたことがある人では、使用を避ける。
- 2 解熱鎮痛成分としてアセトアミノフェンが含まれているので、酒類（アルコール）をよく摂取する人は、肝機能障害を起こしやすい。
- 3 気管支拡張成分の塩酸メチルエフェドリンは、中枢神経系に対する作用があり、依存性に注意が必要である。
- 4 無水カフェインは、マレイン酸クロルフェニラミンによる眠気を防ぐために含まれている。

問 23 かぜに用いられる漢方処方についての記述のうち、誤っているものを
1つ選びなさい。

- 1 小青竜湯はくしゃみや鼻汁等の鼻炎症状、薄い水様の痰を伴う咳、気管支炎等の呼吸器症状に適すとされ、体の虚弱な人に向いている。
- 2 小柴胡湯は、かぜのひき始めから数日たって症状が少し長引いている状態で、疲労感があり、食欲不振、吐き気がする場合に適すとされている。
- 3 葛根湯はかぜのひき始めにおける諸症状、頭痛、肩こり、筋肉痛に適すとされるが、胃腸の弱い人には不向きとされる。
- 4 麻黄湯はかぜのひき始めで、寒気がして発熱、頭痛があり、体のふしぶしが痛い場合に適するとされるが、発汗傾向の著しい人では不向きとされる。

問 24 次の記述は、解熱鎮痛成分に関するものである。それぞれの解熱鎮痛成分の名称について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 本成分は、医療用医薬品では、血栓ができやすい人に対する血栓予防薬としても用いられるので、本成分を含む処方を受けている人が一般用医薬品の解熱鎮痛薬を使用しようとする場合は、医師又は薬剤師に相談することが望ましい。
- b 本成分と、カフェイン、エテンザミドを組合せた処方をACE処方と呼んでいる。
- c 本成分は、カッシュクツリミミズ又はその近縁種を用いた動物性生薬で、古くから「熱さまし」として用いられてきた。
- d 本成分は、オオツヅラフジの蔓性の茎及び根茎を用いた生薬で、鎮痛、利尿等の作用を期待して用いられる。

下欄

	a	b	c	d
1	アセトアミノフェン	アスピリン	ジリュウ	ボウフウ
2	アスピリン	アセトアミノフェン	ジリュウ	ボウイ
3	アセトアミノフェン	アスピリン	ハンピ	ボウイ
4	アスピリン	アセトアミノフェン	ハンピ	ボウフウ

問 25 解熱鎮痛薬に関する記述のうち正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a 症状の軽いうちに服用するのが効果的であることから、症状が現れないうちに予防的に使用することが望ましい。
- b 鎮痛作用を助ける目的で、鎮静成分であるブロムワレリル尿素が配合される場合があるが、依存性があるので注意が必要である。
- c 化学的に合成された解熱鎮痛成分が、痛みや発熱の原因を根本的に解消するのに対し、生薬成分は、痛みや発熱を一時的に和らげる対症療法である。
- d 解熱鎮痛薬には多くの場合、痛みや発熱の原因となるプロスタグランジンの産生を抑える成分が配合される。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 26 鎮うん薬（乗物酔い防止薬）に関する記述のうち、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a 乗物酔い防止薬には、主として吐き気を抑えることを目的とした成分が配合されているので、つわりに伴う吐き気にも使用することができる。
- b 塩酸メクリジンは、他の抗ヒスタミン剤と比べて作用が現れるのが速く、持続時間が短いので、専ら、乗物酔い防止薬に配合されている。
- c 乗物酔い防止薬には、3歳未満の乳幼児向けの製品はない。
- d 塩酸ジフェニドールは、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す抗めまい成分である。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 27 鎮咳去痰薬に関する記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 リン酸ジヒドロコデインは麻薬性鎮咳成分とも呼ばれ、長期連用や大量摂取によって薬物依存につながるおそれがある。胃腸の運動を亢進させる作用も示し、副作用として下痢が現れることがある。
- 2 マオウは気管支に対する作用のほか、心臓血管系にも影響が生じることが考えられ、心臓病、高血圧の診断を受けた人では症状が悪化するおそれがある。
- 3 ジプロフィリン等のキサンチン系成分は気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。副作用として動悸が現れることがある。
- 4 生薬成分のセネガ、オンジは去痰作用を期待して用いられる。これらの摂取により糖尿病の検査値に影響を生じることがあり、糖尿病が改善されたと誤認されるおそれがある。

問 28 胃腸薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 酸化マグネシウムを主体とする胃腸薬を、炭酸飲料等で服用することは、胃酸に対する中和作用が低下することが考えられるので、適当でない。
- b 胃液分泌抑制成分のスクラルファートは、消化管の運動にはほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示す。しかし抗コリン作用のため排尿困難、動悸、目のかすみの副作用を生じることがある。
- c 胆汁の分泌を促す作用があるウルソデオキシコール酸は、胎児毒性の可能性があるので、妊娠または妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。
- d オウレン、オウバクは苦味による健胃作用を期待して用いられるので、飲みにくい場合は、オブラートで包む等して服用することが望ましい。

下欄	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 29 次の胃腸薬の配合成分と配合目的の組み合わせのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- | | | | |
|---|-----------|---|------------|
| 1 | 炭酸水素ナトリウム | — | 制酸成分 |
| 2 | リュウタン | — | 健胃成分 |
| 3 | テプレノン | — | 抗炎症成分 |
| 4 | プロザイム | — | 消化成分 |
| 5 | ソファルコン | — | 胃粘膜保護・修復成分 |

問 30 胃腸薬に関する記述のうち正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 塩酸ロペラミドが配合された止瀉薬は10歳以下の小児にも適応がある。
- b タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、卵に含まれる蛋白質から精製された成分であるため、卵にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- c 止瀉成分にビスマスを含む成分については、長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこととされている。
- d タンニン酸ベルベリンに含まれるベルベリンは、ブドウ球菌や大腸菌に対する抗菌作用をもつ。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 31 胃腸鎮痛鎮痙薬に関する次の記述の（ ）内に入る字句の組み合わせとして正しいものを下欄から選びなさい。
 なお、3箇所の（ a ）内にはいずれも同じ字句が入る。

消化管の運動は（ a ）系の刺激によって亢進し、また（ a ）系は胃液分泌亢進にも働く。ロートエキスは、（ a ）の伝達物質である（ b ）と受容体の反応を妨げることで、胃腸鎮痛鎮痙効果を現す。

下欄	a	b
1	交感神経	アセチルコリン
2	副交感神経	アセチルコリン
3	副交感神経	アドレナリン
4	交感神経	アドレナリン
5	副交感神経	コリンエステラーゼ

問 32 胃腸薬に関する記述のうち正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ダイオウは通常の用量では止瀉作用が期待されるが、大量に摂取した場合には瀉下作用が現れることがある。
- b マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解して生じるガスによって便通を促すとされている。瀉下薬としては比較的作用が穏やかなため、乳幼児の便秘に用いられる。
- c 駆除した寄生虫の排出を促すため、瀉下薬を駆虫薬と併用する場合は、小腸刺激性瀉下成分であるヒマシ油が効果的である。
- d 複数の瀉下薬を併用すると、激しい腹痛を伴う下痢や下痢に伴う脱水症状等を生じるおそれがあり、瀉下薬を使用している間は、他の瀉下薬の使用は避けることとされている。

下欄

1	(a 、 b)	2	(a 、 c)	3	(b 、 d)	4	(c 、 d)
---	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------

問 33 次の駆虫成分のうち、回虫とぎょう虫の両方に効果があるものを1つ選びなさい。

- 1 サントニン 2 リン酸ピペラジン 3 カイニン酸
4 パモ酸ピルビニウム 5 マクリ

問 34 高コレステロール改善薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害の緩和等を目的として配合される。
- b ポリエンホスファチジルコリンは脂溶性物質であるため、悪心、胃部不快感、下痢等の消化器系の副作用が現れることがある。
- c 酪酸リボフラ빈は、過酸化脂質と結合しその代謝を促す作用を期待して配合されるが、服用後、副作用として尿が黄色くなることもあり、その場合は、直ちに使用を中止する必要がある。
- d パンテチンは、高密度リポ蛋白質(HDL)の分解を促進し、また、低密度リポ蛋白質(LDL)の増加をさせる働きがあるとされている。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 35 強心薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a センソは一般用医薬品では、1日用量が10mg以下になるよう用法・用量が定められている。
- b 一般用医薬品の副作用として動悸が現れることがあるので、その場合は、強心薬を併用することが望ましい。
- c ジャコウは強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- d 強心薬については一般に、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、心臓以外の要因も考えられるので、医療機関の受診を勧奨することが重要である。

下欄	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	正

問 36 次の成分を配合する痔疾用薬についての記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

1 g 中	酢酸プレドニゾロン	0.5mg
	リドカイン	30mg
	塩酸クロルヘキシジン	10mg
	アラントイン	20mg
	セイヨウトチノキ種子エキス	4.17mg

- 1 局所麻酔成分としてリドカインが含まれているので、アナフィラキシーに注意が必要である。
- 2 抗炎症成分として酢酸プレドニゾロンが含まれているので、長期連用を避ける必要がある。
- 3 痔疾患に伴う局所の感染を防止するため、殺菌消毒成分としてアラントインが含まれている。
- 4 血行促進や抗炎症作用を期待してセイヨウトチノキ種子エキスが含まれている。

問 37 泌尿器用薬に関する記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 牛車腎気丸は疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渇がある人における排尿困難、頻尿に適すとされるが、副作用として肝機能障害、間質性肺炎が生じることがある。
- 2 猪苓湯は尿量が減少し、尿がでにくく、排尿痛あるいは残尿感がある人に適すとされる。
- 3 八味地黄丸は比較的体力があり下腹部の筋肉が緊張する傾向がある人における排尿痛、残尿感に適し、胃腸の弱い人に向いているとされる。
- 4 ウワウルシは、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒作用を期待して用いられる。

問 38 婦人薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 女性ホルモン成分であるエチニルエストラジオールは、長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- b 女性ホルモン成分は、膣粘膜又は外陰部に適用された場合に、適用部位から吸収されて循環血液中に移行する。
- c 温経湯、加味逍遙散は構成生薬としてマオウを含む。マオウを含む他の漢方処方製剤との併用には注意を促すことが重要である。
- d 温清飲は手足がほてり、唇が乾く人における更年期障害に適すとされるが、胃腸の弱い人にも適すとされる。

下欄 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 39 次のアレルギー用薬の配合成分と配合目的の組合せのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 抗コリン成分 — ベラドンナ総アルカロイド
- 2 ビタミン成分 — ニコチン酸アミド
- 3 抗炎症成分 — ジメンヒドリナート
- 4 抗ヒスタミン成分 — メキタジン
- 5 アドレナリン作動成分—塩酸フェニレフリン

問 40 内服のアレルギー用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため排尿困難や口渇等の副作用が現れることがある。
- b 塩酸プソイドエフェドリンは他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強い。
- c 一般用医薬品のアレルギー用薬は、アレルギー症状が現れる前から予防的に使用することが望ましい。
- d 一般用医薬品のアレルギー用薬は、一時的な症状の緩和に用いられるため、長期にわたり継続的に使用することが望ましい。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 41 貧血用薬（鉄製剤）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 鉄分の吸収は空腹時の方が高いとされているので、食前に服用することが適切である。
- b 緑茶やコーヒーに含まれるタンニン酸と反応して鉄の吸収が悪くなることがあるので、服用前後はこれらの摂取を控える。
- c 骨髄での造血機能を高める目的で硫酸コバルトが配合されることがある。
- d 2週間程度使用しても症状の改善がみられない場合は、鉄欠乏性貧血以外の貧血や他の疾患が原因である可能性もあることから、漫然と使用を継続せずに医療機関を受診することが適切である。

下欄	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

問 42 次の成分を配合する点鼻薬スプレーについての記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

1 mL 中	塩酸ナファゾリン	0.5mg
	マレイン酸クロルフェニラミン	5mg
	塩化ベンゼトニウム	0.2mg
	グリチルリチン酸二カリウム	3mg

- 1 塩酸ナファゾリンは鼻粘膜の血管を収縮させることで、鼻粘膜の充血や腫れをやわらげる。過度に使用されると、血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまりがひどくなりやすい。
- 2 マレイン酸クロルフェニラミンは肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える抗アレルギー成分である。
- 3 塩化ベンゼトニウムは、細菌による二次感染を防止することを目的として配合される殺菌消毒成分である。
- 4 グリチルリチン酸二カリウムは鼻粘膜の炎症を和らげることを目的とした抗炎症成分である。

問 43 点眼薬に関する次の記述の () 内に入る字句の組み合わせとして正しいものを下欄から選びなさい。

点眼液はまぶたやまつげに触れないように (a) 滴ずつ点眼する。
 1 滴の薬液の量は約 (b) μL であり、結膜囊の容積は (c) μL 程度とされている

下欄	a	b	c
1	1	30	30
2	1	50	30
3	1	30	50
4	2	50	50
5	2	30	50

問 44 点眼薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品の点眼薬にも、緑内障による目のかすみを改善できるものがある。
- b コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行わないことが望ましい。
- c 眼科用薬の副作用は、目の充血や痒み・腫れ等局所性のものに限られ、全身性の副作用はない。
- d メチル硫酸ネオスチグミンは、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、目の調節機能を改善する作用を期待して使用される。

下欄 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 45 外皮用薬の使用方法に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 外皮用薬を使用する際には、適用する皮膚表面に汚れや皮脂が多く付着していると有効成分の浸透性が低下するため、患部を清浄にしてから使用することが重要である。
- b 外皮用薬は表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされる。
- c 外皮用薬の塗り薬は、薬剤を容器から直接指に取り、患部に塗布したあと、また指に取ることを繰り返すと容器内に雑菌が混入するおそれがある。いったん手の甲などに必要量を取ってから患部に塗布することが望ましい。
- d 外皮用薬のエアゾール剤は患部から十分離して噴霧し、また連続して噴霧する時間は10秒以内とすることが望ましい。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	誤

問 46 殺菌消毒薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a オキシドールの殺菌作用は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化、及び発生する酸素による泡立ちによる物理的な洗浄効果であるため、作用の持続性は乏しく、組織への浸透性も低い。
- b 塩化ベンザルコニウムは石鹼との混合によって殺菌消毒効果が低下するので、石鹼で洗浄した後に使用する場合には、石鹼を十分に洗い流す必要がある。
- c ヨウ素の殺菌力は酸性になると低下するため石鹼等と併用する場合には、石鹼分をよく洗い落してから使用することが望ましい。
- d アクリノールは黄色の色素で、一般細菌類の一部及びウイルスに対する殺菌消毒作用を示すが、真菌及び結核菌に対しては効果がない。

下欄 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 47 抗炎症作用を有する外皮用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a ステロイド性抗炎症成分を一定量以上含有する製品では、特に長期連用を避ける必要があるので、まとめ買いや頻回にわたり購入する者に対して注意を促すことが重要である。
- b 皮膚の炎症によるほてりや痒みの緩和を目的として用いられる成分にはブフェキサマクがある。
- c 筋肉痛、関節痛、打撲、捻挫による鎮痛を目的として用いられる成分にはウフェナマートがある。
- d ステロイド性抗炎症成分は、みずむし、たむし等の症状を悪化させる恐れがあることからこれらの患部への使用を避ける必要がある。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 48 抗菌作用、抗真菌作用を有する外皮用薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 硝酸ミコナゾールは皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることによりその増殖を抑える。
- 2 ウンデシレン酸は患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- 3 サルファ剤は、細菌のDNA合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- 4 バシトラシンは細菌の蛋白質合成を阻害することにより抗菌作用を示す。

問 49 歯や口中に用いる薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 外用歯痛薬のうち、知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として、アミノ安息香酸エチル等の局所麻酔成分が用いられる。
- b 歯槽膿漏薬に配合される殺菌消毒成分であるグルコン酸クロルヘキシジンで、まれに重篤な副作用としてアナフィラキシーを生じることがある。
- c 茵陳蒿湯の内服は、体が虚弱で、口渇があり尿量が少なく、便秘する人における、蕁麻疹、口内炎に適すとされている。
- d 口内炎用薬等と口腔咽頭薬、含嗽薬などを使用する場合には、十分な間隔をおくことが望ましい。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	正

問 50 禁煙補助剤（咀嚼剤）に関する記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 喫煙を徐々に減らしながら使用することとされている。
- 2 噛むことにより口腔内でニコチンが放出され、口腔粘膜から吸収されて循環血液中に移行する。
- 3 重い心臓病の基礎疾患がある人では循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- 4 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。

問 51 滋養強壮保健薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a ゴオウ、ジオウ、ロクジョウ等の生薬成分は医薬部外品の滋養強壮薬にも配合することができる。
- b 一般用医薬品におけるビタミンAの1日分量は、10000国際単位が上限となっている。
- c 薬用酒は、血行を促進させる作用があることから、手術や出産の直後等で出血しやすい人では使用を避ける必要がある。
- d 水溶性ビタミン成分は、多く摂取した方が適応となっている症状の改善が早まる。一方脂溶性ビタミンでは、過剰摂取により過剰症を生じるおそれがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 52 ビタミンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a ビタミン B1：炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で神経の正常な働きを維持する作用がある。また、腸管運動を促進する働きもある。
- b ビタミン B2：蛋白質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な栄養素である。
- c ビタミン B6：脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- d ビタミン B12：赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 53 滋養強壮保健薬に関する記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 ヘスペリジン[®]はホルモン様物質のひとつでビタミンCの吸収を助ける作用がありかぜ薬にも配合されていることがある。
- 2 コンドロイチン硫酸は軟骨組織の主成分で、そのナトリウム塩は関節痛、筋肉痛等の改善を促す作用を期待してビタミンB1等と組み合わせて配合されていることがある。
- 3 グルクロノラクトンは肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合されることがある。
- 4 ガンマ-オリザノールは抗酸化作用を示す成分でビタミンE等と組み合わせて配合されていることがある。

問 54 漢方処方に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 漢方の考え方には、患者の証に基づく考え方と陰陽五行説に基づく考え方があるが、現在ではこれらを組み合わせた考え方が広く用いられている。
- b 漢方処方製剤は作用が穏やかで、長期間服用しても副作用は起こらない。
- c 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3か月未満の乳児には使用しないこととされている。
- d 漢方処方を構成する生薬には、複数の処方で共通しているものもあり、同じ生薬を含む漢方処方製剤が併用された場合、作用が強くなり、副作用を生じやすくなる恐れがある。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	正

問 55 生薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a ブシ : キンポウゲ科のハナトリカブトの塊根であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。
- b ブクリョウ : サルノコシカケ科のマツホドの菌核を用いた生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- c サンザシ : バラ科のサンザシ又はオオサンザシの偽果を用いた生薬で、健胃、消化促進等の作用を期待して用いられる。
- d インヨウカク : ウシ科のサイガレイヨウの若い角を用いた生薬で、緊張や興奮を鎮める作用を期待して用いられる。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

問 56 次の生薬に関する記述の () 内に入る字句の組合せとして正しいものを下欄から選びなさい。

ニンジン、(a) の細根を除いた根を用いた生薬で別名 (b) と呼ばれる。神経系の興奮や副腎皮質の機能亢進により、抵抗力や新陳代謝を高めるとされる。

同様の作用を期待して用いられるチクセツニンジンは (c) の根茎を用いた生薬である。

下欄

	a	b	c
1	ハクジン	朝鮮人参	コウジン
2	オタネニンジン	朝鮮人参	トチバニンジン
3	トチバニンジン	高麗人参	オタネニンジン
4	朝鮮人参	高麗人参	オタネニンジン
5	朝鮮人参	ハクジン	コウジン

問 57 消毒薬に関する記述のうち、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a トリクロロイソシアヌル酸は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の殺菌消毒に用いられることが多い。
- b クレゾール石鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して殺菌消毒作用を示す。
- c イソプロパノールはアルコール分が微生物の蛋白質を変性させ、殺菌消毒作用を示す。ウイルスに対する不活性化効果はエタノールよりも高い。
- d 次亜塩素酸ナトリウムは強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示し、有機物の影響を受けにくい。

下欄

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 58 消毒薬の誤用・事故の際の対処に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 消毒薬を誤って飲み込んだ場合応急処置として、通常は多量の牛乳などを飲ませるが、手元に何も無いときはまず水を飲ませる。
- b 消毒薬が誤って目に入った場合、流水で十分に（15分以上）洗眼する。
- c 酸やアルカリが目に入った場合は、早期に、酸はアルカリで、アルカリは酸で中和する。
- d 消毒薬が誤って皮膚に付着した場合、流水をかけながら着衣を取り、石鹸を用いて流水で皮膚を15分以上水洗する。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問 59 殺虫剤・忌避剤に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 蒸散剤は容器中の医薬品を煙状又は霧状にして一度に全量放出させるものである。霧状にして放出するものは、噴射された粒子が微小であるため短時間で部屋の隅々まで行き渡るというメリットがある。
- b フェニトロチオンは、有機リン系殺虫成分で、アセチルコリンを分解する酵素の働きを阻害することにより殺虫作用を現す。
- c ピレスロイド系殺虫成分であるペルメトリンは、人体に直接適用されるものである。
- d デイートを含む忌避剤は、生後6ヶ月未満の乳児への使用を避けることとされている。

下欄

1 (a、b)	2 (a、c)	3 (b、d)	4 (c、d)
---------	---------	---------	---------

問 60 尿糖・尿蛋白検査薬及び妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか下欄から選びなさい。

- a 尿糖・尿蛋白同時検査の場合、早朝尿（起床直後）の尿を検体とするが、尿糖が検出された場合には、食後（1～2時間）の尿について改めて検査して判断する必要がある。
- b 出始めの尿では、尿道や外陰部等に付着した細菌や分泌物が混入することがあるため、中間尿を採取して検査することが望ましい。
- c 妊娠検査薬は、温度の影響を受けることがあるので、冷蔵庫内に保管することが望ましい
- d 子宮外妊娠や胎状奇胎などを生じている場合には、妊娠しているにもかかわらず妊娠検査薬による検査結果が陰性となることがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	正